

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

会報の一巻 第25号

発行:2013年6月4日
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
電話・FAX 082-428-0160・082-428-1360

安居会法座

日 時 6月22日（土） 9：00～15：00頃
朝席 9:00～11:00 暮席 13:00～15:00
ご講師 渡邊 幸司師（佐伯区五日市町 光乘寺ご住職）



川上仏婦連合法座

日 時 7月7日（日）
午前 総会・演奏会（出演者は広島音楽高等学校時代、担任させていただきました。）
午後 法座 13:00～15:00 頃
ご講師 観山 正見師（福富町長圓寺ご住職・元国立天文台長・京都大学名誉教授）

演奏者プロフィール

田坂久紗乃（たさかひさの）さん

広島音楽高等学校卒業。エリザベト音楽大学演奏学科声楽卒業

第58回広島音楽高等学校定期演奏会、卒業演奏会出場

第61回・第62回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール 優秀賞受賞

第4回東京国際声楽コンクール 大学生の部 第3位。小畠佳子氏に師事。

谷崎 友美（たにざき ゆみ）さん

広島音楽高等学校卒業。エリザベト音楽大学卒業。現在、エリザベト音楽大学院在学中。

第58回広島音楽高校定期演奏会、卒業演奏会に出演。

2007年、ピティナ・コンペティション連弾上級部門 全国決勝大会 奨励賞。

2012年、モーツアルテウム音楽院夏期国際音楽アカデミーにおいてドビュッシーコンクール第1位。ピアノを宮入友子、廣澤久美子、横山幸雄、前田麻紀の各氏に師事。

第22回歎異抄輪読会

日 時 6月20日（木） 19:00～20:30頃
ご講師 松田正典先生（広島大学名誉教授）
費 用 500円

どなたでも参加は自由です。現在、歎異抄第1章をご講義頂いています。

★第12回コーラス練習

6月17日（月）・24日（月）9:30～11:30

7月7日（日）の発表にむけて練習に熱が入っています。

★天龍寺佛教壮大年会 定例会（19:00～20:30頃）

未定、関係の方にはご連絡をさせていただきます。

第2回天龍寺佛教壯年会研修旅行終えて

5月14日(火)、天龍寺佛教壯年会の主催によります研修旅行を実施することが出来ました。妙好人才市さんの所縁の島根県温泉津町安楽寺、大森銀山の西性寺(私の妹が嫁いでいますお寺です。)等を24名の方と行かさせていただきました。晴天に恵まれ、暑さも感じましたが、ご参加いただきましたみなさまと和やかな雰囲気の一日であったと感じております。八本松町に限らず、福富町・河内町・西条町・志和町等からもご参加をいただきました。本当に不思議なご縁での出会いに感謝したしだいです。今後も旅行等を通して、多くのみなさまとの出会いをさせていただきます事を念じ申しあげるしだいです。天龍寺佛教壯年会のみなさまに多大なるご尽力並びにご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。



人は何故に生きていかなくてはならないのでしょうか？ III

その考え方で生きていくならば、老いも病むことも死ぬことも一つの過程に過ぎないのかもしれません。しかし、お浄土の世界は人間の五感を超えた世界ですから、天龍寺は何を言っているのかと疑問などを呈する方も多いと思います。

この様なお話をした時に、ある方がこの様な事を言われました。「生きているだけで良い。生きるために生きているんだ。」確かに言われることも、ごもっともと思いましたが、自坊に帰って考えますと、生きるために生きるのであれば、陸上競技の同じトラックを毎日何度も走っていることと同じなのかもしれないと思う事がありました。昔「およげたいや焼き君」という歌がありましたが、そのフレーズの中で「毎日毎日ぼくらは同じ鉄板の・・・」偉そうな言い方ですが、走り続けて力尽きた時に、死を迎えるのかとも考えたしだいです。

オウム真理教の麻原氏に帰依した信者の方は、世間的には高学歴の方が多く入信されたとマスコミ等の報道であったと記憶しております。私は、何故にその様な人たちが、倫理的・道徳的に見ても明らかに逸脱している教えに入信されたのか疑問でした。ある本の中で、ある信者の方が入信した理由について、以下のように書いてありました。それは「麻原氏だけが、自分がこの境涯に生を受けた意味・意義・目的等をきちんと教えてくれた」という内容でした。その文章にも記してありましたが、人間は本当に喉が渴いたら、どぶ水さえするのかと思ったしだいです。

自然界に目を向けてみると、木・草等は生を受け、成長し、時間と共に枯れていき、この境涯から消滅していきます。それに対して何をするわけではなく、ただ自然の営みに身を任せています。

私たちは何のためにこの世に生を受け、何のためにこの様に苦しみ・悩み・悲しみに出会い、そして何のために老い、何のために病み、何のために死んでいくのでしょうか、どこに向かっていく存在であるのでしょうか。一日一日の一歩は何のためなのでしょうか。それは往生極楽に向かっていく一歩なのだと親鸞聖人は優しくお示しくださっていると思うところでございます。・・・・
(続きは寺報26号に記載させていただきます。)

◆お知らせ

6月下旬から天龍寺佛教壯年会の方のご尽力により、天龍寺本堂の廊下の張り替えをしていただくこととなりました。昨年の庫裡のリフォームに続き、ありがたいことだと感謝しているしだいです。本当にありがとうございます。